

## 新潟新工場、本格始動。ここで和紙糸はどう作られる？



昨年 10 月 27 日に竣工式を行い、  
操業を開始していた株式会社キュアテックス新潟工場が  
いよいよこのたび本格稼働となりました。

新設のこの工場が担っているのは、  
和紙糸〈CURETEX®〉の製造。

具体的には、  
国内で製造された高品質なロール状の「和紙」を  
独自製法で「糸」にしています。

和紙の持つ“やさしさ”を活かすことにこだわった製造工程には、  
さまざまな試行錯誤から生まれた工夫が随所に。

植物が持つ自然の力を損なわないよう、  
とにかく丁寧に手間ひまかけるのが、キュアテックスの信条です。

まずはテープ状に裁断した和紙を“こより”の原理でねじり、細く撚りあげた糸をいったん筒状に編んで生地にします。

そして編地の束を丁寧に水洗いし、天日でじっくり自然乾燥。乾いたら、編地をほどいて糸に戻し、巻き上げて完成です。

わざわざ編んでほどくなんて、もったいない？

でもこの工程こそが、和紙糸に伸縮性や柔軟性をもたせる独自の加工。特別なやさしい風合いの秘密であり、糸としての機能性をより一層高めることにもつながっています。

糸を布に織る際、「経糸（たていと）」は「緯糸（よこいと）」よりも品質の高さが求められますが、〈CURETEX®〉は「経糸」としても使えるクオリティを実現。「和紙 100%製品」の製造を可能にしました。

〈CURETEX®〉のマスクやTシャツ、そして従来のイメージを覆すデニムも、他の素材との混紡ではない、純粋な和紙 100%製品です。

そして、和紙 100%の〈CURETEX®〉は、土から生まれて土に還るサステナブル素材でもあります。

土にかぶせたり埋めたりしておけば短期間で生分解するだけでなく、土壌の微生物を活性化させる効果も有しており、農地の土壌改良に活用できるのです。

いま、キュアテックスでは和紙 100%の〈CURETEX®〉を捨てずに土に還し、農地の土壌改良に活用して栄養価の高い野菜を育てる独自の循環型システムの構築を進めています。

伝統の和紙を今に活かすこだわりの製法と、これからの社会にふさわしいサステナビリティ。

新潟工場にはそんなキュアテックスらしさがいっぱい詰まっています。